

国土交通省 東北地方整備局との 意見交換会

広報委員会 渉外部会長 **真坂 康晴**

1. はじめに

東北地方整備局と東北地質調査業協会の意見交換会が、平成27年2月18日(水)16:00～18:00にハーネル仙台「蔵王」にて開催されました。その内容を以下にご報告いたします。

2. 出席者

東北地方整備局からは、技術調整管理官 柴田吉勝様、技術開発調整官 松井幸一様、河川情報管理官 谷田広樹様、道路調査官 宮田忠明様、技術管理課課長補佐 鈴木之様、技術管理課工事品質確保係長 榎信一様の6名がご出席されました。

当協会側からは、全地連 山本専務理事、高橋理事長、奥山副理事長、高橋理事、新田理事、熊谷理事、坂本理事、早坂理事、大友理事、蓑理事、奥山理事、菅野理事、東海林事務局長、真坂渉外部会長の14名と記録係として羽生田広報委員、彦坂広報委員が出席しました。

3. 主な内容

冒頭の挨拶で、柴田技術調整官より2月3日に決定した補正予算の説明があり、東北管内で災害復旧、災害対応強化を図る目的のため緊急防災対策も含め398億円の予算が計上され、堤防整備、河道掘削、災害発生時の代替道路整備工事、橋梁の耐震化など今後の防災対策の方針が示されました。公共事業の執行にさらに万全を期すため平成27年2月から技術者単価も前倒して改訂され、地質調査業務の技術者単価は平均で3.6%の上昇になっており、非常に重要な地質調査を担っている地質調査業界に対

し、今後も事故に注意しながらなお一層、品質の高い成果品を納めて欲しいとの要望が述べられました。

意見交換は当協会側でお願いした以下の4つの議題に沿って行われました。

- ①地質調査業務の現状について
- ②災害対応について
- ③地質調査業務の発注方式と今後の予定について
- ④その他

議事内容の概要は以下のとおりです。

より一層の業務発注の平準化、十分な履行期間の設定、工期・納期の延長などの柔軟な対応を求めました。これに対し、東北整備局側からは、2014年12月時点で3月工期の案件が32%であることなどを示したうえで、ゼロ国債活用などの一層の推進などにより発注の平準化を図ることや、十分な履行期間の確保を図っていく方針が示されました。

地質調査業務の発注方式と今後の予定については、当協会から東北整備局における発注・入札状況の現状についてお伺いし、低価格入札があった1千万円以下の指名競争による業務への履行確実性審査の適用、地元企業に対する門戸の拡大も要望し、地方自治体での同種業務実績を評価した発注方式の実施、分離発注の継続を求めました。担い手の確保・育成の観点からは、技術者の待遇改善と最低限の利益を実現するための調査基準価格、一般管理費の引上げを要請しました。三者会議への地質調査受注者の参画や、地質専門技術者の活用も求めました。東北地方整備局側からは事前に準備された資料を基に、履行確実性審

.....

査に実施に際しては、500万円超の総合評価方式案件に適用していることに触れ、引き続き所管事務所に指導していく考えが示されました。地方自治体の業務成績活用については、東北地方整備局側で把握できていないため評価対象としていないが、公共工事品質確保促進法(公共工事品確法)の方向性などを踏まえて、対応が進む可能性が示されました。低入札調査基準価格の算定での一般管理費引き上げについては、全国的な対応となるため、本省の動向を注視していく考えが述べられました。

自由討議では、地質調査業界の魅力向上策が大きなテーマとなり、東北地方整備局の柴田技術調整管理官は「地質調査で採取したボーリングコアを周辺住民に公開し、自分の住んでいるところの地盤がどうなっているのかを知ってもらう取り組みなどを通じて、地質調査業の認知度を高めることができるのでは」との提案をいただき、当協会も「こうした取り組みが重要である」との認識で一致しました。また、国交省の課題として、防災・減災、老朽化対策、メンテナンス、耐震補強、地域の活性化などが挙げられるとの説明がありました。入札不調問題では、当協会は、ダム関連の地質調査で入札不調率が高い理由について、広範囲にわたる地すべり調査も含め100mを超えるボーリングを実施できるオペレーター・技能者の不足が入札不調の一因になっていると説明しました。その上で、「改正品確法」の理念に基づき、適正な利潤があげられる業界とならなければ若手の確保・育成は難しい」とし、同法をはじめとする「担い手3法」の市町村までの浸透を要望しました。最後

に高橋理事長から、老朽化対策、維持点検、防災・減災にしっかりと対応するとともに、業界をPRして認知度を高めていくことをアピールし、議事を終えました。

4. 謝辞

当協会との意見交換会を快く承諾され、司会や資料作成などの多大のご協力をいただいた東北地方整備局の関係各位に厚くお礼申し上げます。また、記録・写真係を担当された羽生田委員、彦坂委員の広報委員各位に心より感謝いたします。



挨拶される柴田技術調整管理官と整備局各位



意見交換会の様子